

＜研究主題＞

「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動

～人間関係形成・社会参画・自己実現～」（2年次）

1 研究方法

- 特別活動年間計画、評価等、学習指導要領に対応して計画的に活動を推進していく。
- 特別活動で育む確かな資質・能力と各校の取り組みとのつながりを明確にした活動の推進をしていく。
→ 各校での実践、年間計画の作成、レポートの作成
- 小・中学校の交流をより充実させ、義務教育小・中学校9年間の内容の系統性を意識した研究・実践の推進を図っていく必要がある。
→ 中学校区での情報交換、第3回授業研修会

(1) 研修会の開催

- 年間3回の研修会を開催する。
特別活動で育む「共に生きる力」を明確にした実践や研究を紹介し合う。
- 特別活動を先進的に研究推進されている方の講演を聴き、特別活動に対する見識を深める。

本年度の研修会計画

	1・2部会	3・4部会	5・8部	6・7部会
第1回 5/31(水)	＜可美公園総合センター＞ ○ 全ブロック合同研修会 ・指導主事講話 : 浜松市教育委員会 指導課 指導主事 ・グループ協議			
第2回 8/3(木)	＜可美公園総合センター＞ (午後) 実践発表 ワークシートを活用したグループ協議 合意形成についての研修			
第3回 11/8(水)	＜曳馬小＞ ◎授業研修会	＜新津中＞ ◎授業研修会	＜北浜南小＞ ◎授業研修会	＜豊岡小＞ ◎授業研修会

(2) 研究集録の作成

- 市内各校の実践を集め、市内の教職員のための書物となるような集録を作成し、各校に配付する。
- 各校の実践にあたっては、「学習指導要領の内容をふまえた活動」「特別活動で育む確かな資質・能力の具現化・明確化につながる活動」となるようにする。「5. 研究を推進していく上での課題と留意点」を参考にするとともに、人間関係形成・社会参画・自己実現の中から重点項目を定め、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成の手立てや指導、評価方法について研究し、実践した内容をレポートにまとめる。市特別活動研究集録等資料の活用を推進する。

※ 全校原稿提出

- ・ 第3回研修会に持ち寄る → ブロック実践集作成 → 市研究集録原稿選出
- ・ A4 2枚 の実践レポート

(3) 情報の収集と研究成果の発信

- 研修会における成果や課題について、部報を通じて発信する。
- 市内各校の実態調査(アンケート)を行い、実践する上での参考資料として結果を、研究集録等を通じて各校に発信する。
- 日々の授業で活用できる資料やワークシート等の作成・発信

2 研究を推進していく上での課題と留意点

(1) 全体をとおして(学習指導要領解説より)

① 重視すべき事柄

- ・ 人間関係形成、社会参画、自己実現の育成を重視する。
- ・ 自主的、自発的な活動を一層重視する。
- ・ 体験活動、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子供たちからなる集団による活動を一層重視する。

② 作成すべき指導計画

「特別活動の全体計画」や「各活動・学校行事の年間指導計画」については、各学校において作成すべき指導計画である。

③ 総合的な学習の時間との関連

ア 共通点

児童生徒が自主的あるいは、主体的に物事に取り組む態度を養うことを目標としている。

イ 相違点

特別活動は、「望ましい集団活動を通じた活動」であることが特質であるのに対し、総合的な学習の時間は、「横断的、総合的な学習や探求的な学習を通じた活動」が特質である。

以上の点をふまえた上で指導に当たる必要がある。ただし、総合的な学習の時間における活動が、特別活動の目的や内容と同等の効果が得られる場合、総合的な学習の時間の実施によって、学校行事の実施に替えることができる。

(2) 学級活動

① 年間35週以上の実施

学級活動は特別活動の基盤(中でも、活動内容(1)「学級や学校の生活づくり」は、中心的な活動)である。長期休業前後の指導を含むと年間35週(標準時数)以上の実施となるため、適切な時数を確保したい。

② 自発的・自治的活動の充実

活動内容(1)のうち、児童・生徒が自主的に学級や学校生活上の諸問題を解決する話し合い活動や自分たちでルールをつくって守る活動などを一層重視した年間計画を立てる。

活動内容(1):活動内容(2)(3)の比率は、学級会の指導の充実に努めるという観点から、おおよそ2:1としたい。また、子供が自発的、自治的に活動できるよう、「学級活動コーナー」等を設置し、教室環境を整えたい。さらに、活動内容(2)(3)の活動でも、内発的な動機を促すため、児童生徒の自主的な話し合いの場を取り入れたい。

③ 計画委員会の設置

学級内の組織づくりとして、全児童・生徒による計画委員会を組織し、輪番制により学級活動の運営を行っていききたい。

④ 話し合い活動のあり方

「教えて学ばせる」という視点に立ち、議題の決定の仕方や話し合いの進め方、集団決定の方法などは、まず教師が学び方を示し、実態に応じて児童・生徒の手に委ねるような姿勢で指導にあたりたい。また、学年の発達段階に応じた「話し合う力」の系統性を学校ごとに示されていることが大切である。上記の内容が、各校が作成する「学級活動の年間指導計画」に盛り込まれるようにしたい。

⑤ 話し合いが円滑に進む支持的風土づくり(認め合う雰囲気づくり)

単に自分の思いを伝えることに終始せず、相手の思いに沿って考えることや何でも言い合える支持的な風土づくりを進めていきたい。そのための一つの方策として、構成的エンカウンターなどの導入も考えていきたい。また、よりよい人間関係を築くためにも社会的スキルを身に付ける活動としても、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを効果的に取り入れたい。

⑥ 自主的な係活動

当番活動との違いを明らかにしながら、自主的・自発的な係活動となるよう努め、小学校高学年からの委員会活動が円滑に進められるようにしていきたい。また、集団の一員としての自覚や責任感を高め、勤労を重視する視点からも係活動及び当番活動を計画的に指導する。

⑦ 今日的な課題への取り組み

職業意識の低下や基本的な生活習慣の身定着など児童や生徒の成長を妨げる今日的な問題がクローズアップされていることに配慮した指導が望まれる。

そこで、今まで以上に、ガイダンス機能の充実やキャリア教育の推進、基本的な生活習慣の指導として特に、言葉遣いや食育に関する事項について、児童・生徒の実態に応じて活動内容(2)や(3)で指導していきたい。

⑧ 指導計画を立てる上での留意点

各学年や各学級の年間指導計画を作成する場合には、目標や育てたい力を明確にするとともに子供たちに任せることのできない条件(課題)を明確にしたり、発達段階に即した指導のめやすを全職員の共通理解を図った上で決めたりしながら内容を考えていくことが大切である。

(3) 児童会・生徒会活動

① 全児童・生徒をもって組織する活動

一部の児童や生徒だけで活動がなされないように配慮したい。なお、運営に関して、児童会活動は高学年小児童という限定がなされているが、このことについても、一部の児童に運営がゆだねられないように配慮し、「一人一人に生きる力をつける」ことを念頭に置きたい。そうした上で、異年齢の子供たちからなる集団における自治的能力の育成を図りたい。なお、各委員会の所属については、1年間同一の委員会に所属することが望ましい。

② 活動時間の確保

代表委員会活動	…	月1単位時間程度
委員会活動	…	月1単位時間程度
児童会集会活動	…	(比較的規模の大きい集会を)学期に1・2回程度

上記のような指針に立って、必要時間をあてたい。中学校の「生徒評議会」や「各種の委員会」の活動、集会活動についても小学校に準拠した時間数を充てたい。

③ 指導計画を立てる上での留意点

指導計画の作成に当たっては、学校の実態や児童生徒の発達段階を考慮するものの、自発的、自治的な実践活動であることをふまえ、形式的、画一的、固定的なものでなく、あらかじめ基本的な枠組みを定めた上で、実際の活動は児童生徒によるものとなるよう弾力的、融通性に富むようなものにする。

(4) 学校行事

① 体験を重視した活動の創造

中教審の「審議経過報告」では、特に体験を「心を育て、体を育てる源」とし、「体験の充実」を訴えている。そこで、旅行・集団宿泊の行事や勤労生産・奉仕的行事を中心に、教師のねらいや手立てを明確にした上で、体験活動の充実を図っていききたい。そうした上で、所属感や連帯意識を深め、学校の仲間や地域の人々とのかかわり(を通した人間関係を築こうとする態度)、協同の意義、本物の自然や文化の価値や大切さを実感させていききたい。

② 儀式的行事の実施

儀式的行事の前後において、自分のよさや友達、集団活動のよさに気付き、新しい生活への希望や意欲をもてる動機付けをする中で、所属感を深めるとともに、厳かな機会を通して、規律や気品のある態度を育てる活動の計画を立てて実施したい。

③ 文化的行事の実施

個の各教科や他の領域等の学習の成果が生かされ、かつ集団としてのよさが発揮される活動や質の高い芸術や文化などにふれる活動の計画を立てて実施したい。

④ 健康安全・体育的行事の実施

「就寝時間や食育」など時代に合った活動を創造するとともに、体育的行事にあつては、運動に親しむ態度や体力などの向上のみならず、連帯感の育成という観点からも目標を考え、活動の計画を立てて実施したい。

⑤ 遠足・集団宿泊的行事

自然や文化などに親しむ活動を通して、①学校における学習活動を充実発展させ、②楽しい思い出をつくり、③人間関係を築く態度が育つような活動計画を立てて実践したい。特に小学校では、自然の中での集団宿泊的活動を取り入れたい。

(5) クラブ活動

① 活動内容

活動内容については、児童の興味や関心が高まるよう、保護者や地域と連携したり、講座制の活動等を設けたりしながら、工夫を図りたい。そうした上で、異年齢の子供たちからなる集団において、楽しい学校生活やよりよい人間関係を築く力の充実を図りたい。

② 活動時間の確保

児童の興味や関心を追求するための時間として、学校の実情をふまえた上でそれにふさわしい時間数を、各校において配慮し確保する。